

北海道浮魚ニュース

令和5(2023)年度5号

2023年6月16日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ：http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/kushiro/section/zoushoku/ukiuo_news.html

◎道東太平洋イカ類北上期資源調査結果

調査船・北辰丸により実施したスルメイカ資源調査の結果をお知らせします。

調査海域におけるスルメイカの分布密度は低く、来遊は本格化していないと考えられる

調査期間：2023年5月31～6月9日

調査海域：道東太平洋（北緯41度線上の7調査点）

調査船：北辰丸（釧路水産試験場所属）、イカ釣機5台装備

調査方法：イカ釣機による夜間漁獲調査、CTDによる海洋観測

1. 水温環境（図1）

図1に各調査点の水温（表層・50m及び100m）とスルメイカのCPUE（2連式いか釣り機1台1時間あたり漁獲尾数）を示しました。表面水温は12.9～16.4℃（昨年9.1～17.8℃）、50m深は3.9～10.3℃（昨年3.7～15.4℃）、100m深は1.2～8.3℃（昨年1.6～12.4℃）の範囲にありました。全体として、スルメイカの分布の目安とされる50m深で10℃以上の海域が調査海域の中央部にみられたものの、釧路～根室海域南方の沖合に水温の高い海域がみられた2022年に比べ2023年は表層を除いて水温が低く、塩分値も低い値であったことから、高温・高塩分の黒潮系暖流水の調査海域への影響は本格化していないと考えられます。

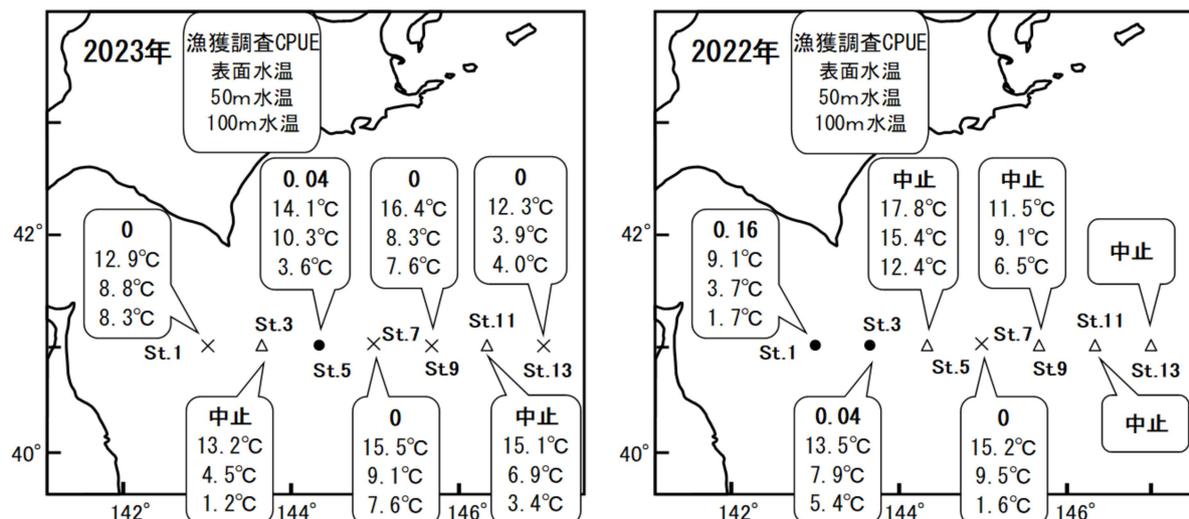


図1 各漁獲調査点でのスルメイカの漁獲調査結果と表面・50m・100m 深水温度（左：2023年、右：2022年）。●は漁獲あり。×は漁獲なし。△は漁獲調査中止

なお、道総研水産研究本部では北海道周辺海域で2ヶ月ごとに3隻の調査船を用いた定期海洋観測を行い、水温及び流向流速について海況速報を発信しています。以下のURLで公開していますので、そちらも参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou>

2. 分布密度 (図2、表1)

各漁獲調査の CPUE を基準としてスルメイカの分布密度を調べました。漁獲調査点 7 点のうち 5 点で漁獲調査を実施し、うち St. 5 で 1 尾 (CPUE : 0.04) の漁獲がありました (図 1)。全調査点の平均 CPUE は 0.01 で昨年 (平均 CPUE : 0.07) を下回り、過去 3 番目の低い値となりました。海洋環境調査の結果と併せて、今回の調査海域におけるスルメイカの分布密度は低く、北上群の来遊は本格化していないと考えられます。

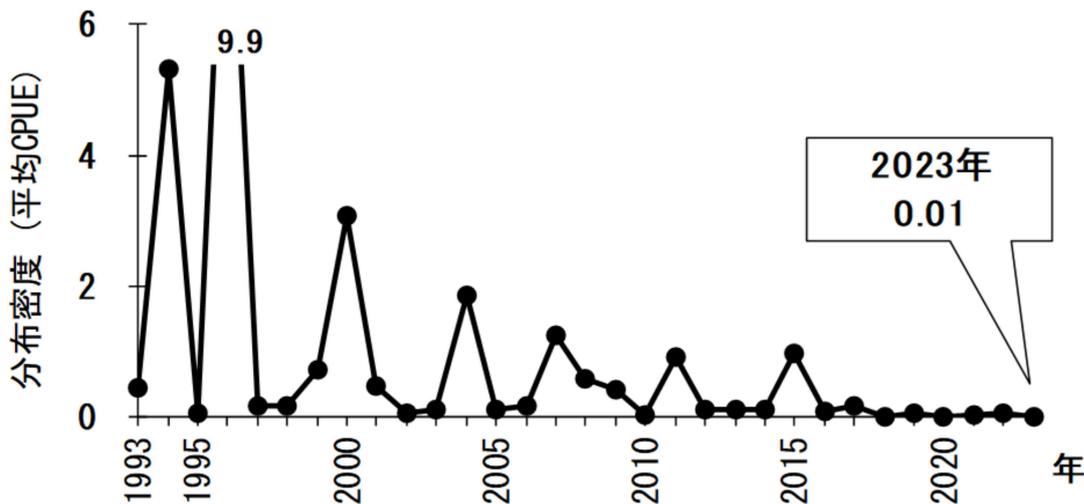


図4 スルメイカの分布密度 (平均 CPUE) の経年変化

表1 2010～2023年のスルメイカ調査結果

調査日程	漁獲尾数	平均CPUE	外套長組成		調査点数
			範囲(cm)	モード(cm)	
2010年 6/7～14	8	0.03	13-16	15	7
2011年 6/7～14	268	0.92	6-19	16	7
2012年 6/9～16	29	0.10	6-11	10	7
2013年 6/3～10	15	0.10	5-16	16	7
2014年 6/2～9	20	0.11	13-18	15	7
2015年 6/4～12	159	0.97	13-20	16	7
2016年 6/7～13	12	0.08	14-18	15-17	6
2017年 6/7～15	24	0.16	11-17	15	6
2018年 6/5～11	0	0.00	-	-	5
2019年 6/5～11	4	0.05	10-11	10,11	5
2020年 6/4～11	1	0.01	11	11	7
2021年 6/2～10	2	0.02	16, 24	16, 24	5
2022年 6/2～6	5	0.07	8-15	8-15	3
2023年 5/31～6/9	1	0.01	12	12	5

3. 魚体サイズ (表1)

釣獲調査により漁獲されたスルメイカ 1 尾の外套長 (胴長) は 12.8cm でした。

※本調査は水産資源調査・評価等推進委託事業により実施しました。

(釧路水産試験場 調査研究部、TEL:0154-23-6222、FAX:0154-23-6225)